弘教寺仏婦、本願寺新報 2021.11.20 号に掲載される

本願寺新報
hongwanji journal
11月20日(土曜日)
毎月1日・10日・20日発行
発行所 本願寺新報社

トップニュース

携行本尊を中心に人がつながる

群馬・弘教寺

「阿弥陀さまがご一緒」をコンセプトに4月1日、本山本願寺が新たに制定した、名刺サイズ(縦90ミリ×横55ミリ×厚さ2ミリ)の「携行本尊(絵像)」(写真下、実物大)。11月1日までに全国から約1900幅の申し込みが届いている。群馬県伊勢崎市・弘教寺(中山英昭住職)では、仏教婦人会員を中心に21幅を申し込み、携行本尊を中心にした人のつながりが広がっている。

携行本尊で人のつながりの大切さを改めてかみしめる(左から)中山恵子坊守、柴田章子さん、宮澤美智子さん、福永君代さん、宮崎さと子さん、泉昌子さん

息子家族にご本尊贈る

携行本尊のつながりの輪の起点は、仏婦会員の宮崎さと子さん(78)が4月、携行本尊の記事が載る「本願寺新報」を手に、中山住職(70)に「これがほしい」と申し出たことだった。

宮崎さんは、県内で暮らす次男、三男家族それぞれの分のご本尊を迎えたかったという。「3年前に亡くなった夫はお寺の役員をしていたが、私は"三男の嫁"だったので、あまりお寺に参る機会はなく、自分でも積極的に関わってこなかった。だから『本願寺新報』を取るようになって、携行本尊の記事を見て『ああ、これだ』と思った。母からのプレゼントとして息子たちに贈ったら、びっくりしたようだが喜んでくれ、毎朝手を合わせてくれている」と話す。

「ご本尊とともに生活を」

「おき」という場を生かした人のつながりを大切にする同寺。仏教壮年会、仏教婦人会の月例だけでなく、門徒発案のさまざまなサークル活動に取り組むことで、楽しみながらお寺と縁を結んでいる。

宮崎さんは夫を亡くした後、仏婦に入り、同寺のさまざまなサークルにも積極的に顔を出すようになり、子どもたちも宮崎さんと一緒に寺にお参りするようになったという。宮崎さんは「自分はそういう機会がなかったから、息子たちには『つながりっていうのはこういうものだよ』っていうのがわかればいいかなと思い、なるべくそろってお参りするように心掛けている。お寺さんに来ると心が安まって、うれしい。来ると何かね、ついつい涙が出ちゃう」と涙をこぼした。

実際に見て「私も」の声

宮崎さんは中山住職の長男・大悟さん(25)を中心に開く正信偈の書写サークル「うづき会」にも参加する。そのメンバーに携行本尊を見せ、息子たちに贈ったことを伝えると、4人が「私も持ちたい」と中山住職に申し出たという。

その4人が携行本尊を求めた理由を語ってくれた。

仏婦元会長の福永君代さん(83)は「宮崎さんのご本尊を見てほしくなった。私も息子に渡したいけど粗末にされたら困るし…」と少し顔を曇らせると、恵子坊守(67)が「そんなことはない。お母さんはこういう気持ちだということが携行本尊で伝わると思う。粗末にしたりするんじゃないかと疑っちゃダメ」と後押し。福永さんは息子夫婦用の2幅を追加で申し込んだ。

宮澤美智子さん(73)は「実家は富山出身の門徒だが、嫁ぎ先は他宗旨。実家のお仏壇は母を看取った後になくなってしまった。今は携行本尊で阿弥陀さまに手を合わせていて、本当に気持ちがホッとする。富山には中学2年までいたが、仏さまを『ののさま』と言っていた。そういうのが染みついていると思う」。

柴田章子さん(83)は「いつも持っていようと思って求めたが、なくしてはいけないと居間に置いている。居間でも手を合わし、居間にも携行本尊さまがいらっしゃる。いつでもどこでも、という感じ」と顔をほころばせる。

仏婦会長の泉昌子さん(80)は「10年前に亡くなった夫は、病室で手を合わせていた。あの時、このご本尊があれば…。いいご本尊を考えてくださった。ご本尊がご一緒してくださると思うとすごくうれしい。本当に有り難いとみんなで言っている」と、繰り返し感謝の意を述べた。

恵子坊守は、京都の中央仏教学院で学ぶ次男の真悟さん(23)に携行本尊を贈った。「気持ちは思っているだけでは伝わりにくい。大事なものを贈ることで気持ちも贈りたい。そのためにはまず行動。子どもに、親はこうやって一生懸命お仏壇に向かっていたということに気づいてもらうきっかけになると思う」と仏婦会員に語りかけた。

携行本尊(絵像)

仏婦の例会で携行本尊紹介

10月20日の仏婦例会では、携行本尊について中山住職が法話を行い、恵子坊守が「本願寺新報」の記事を見せながら、ご本尊とともにある生活の尊さを説いた(写真左)。その言葉と、携行本尊の実物を見た仏婦会員から新たに10件の申し込みがあった。

中山住職は「お念仏のみ教えを現代人の、特に若い世代に伝えていく大事な時期にきていると思う。今回はご門徒さんの声からこういう機会に発展して、あらためて携行本尊のような形のものが要望されていることを知った。核家族化していて、なかなか手を合わせる場所がない。入院などで仏壇を置けないケースもある。携行本尊を持つことによって、手を合わせる場所と機会を作って、ひとつの尊いご縁ができるかなという気がする」と話した。

携行本尊の申し込みは

携行本尊は、家から職場や学校などに出かけるとき、あるいは、入院などで自宅を離れる際、また、子どもたちが実家を離れる際などに携行してもらい、いつでもどこでも「阿弥陀さまがご一緒」という意識を持って生活していただきたいと制定されたもの。素材は、漆器のような漆黒の美しさを持つ漆ブラック調バイオプラスチック。持ち歩いても大丈夫なように耐久性を兼ね備えている。

1幅の冥加金は1万円。来年3月31日までは一度に5幅以上の申し込みに対する送料は無料となる。携行本尊の申し込みは、本願寺ホームページ「お西さん(西本願寺)」(右にQRコード)の専用申し込みフォーム、または本山・参拝教化部☎075(371)5181。

◆宗派顧問税理士のゆびすいにお任せください◆
ゆびすいグループ
税理士法人ゆびすい
YUBISUI
0120-067-149
文化庁主催『宗教法人実務研修会』の担当講師
http://www.yubisui.co.jp　ゆびすい 公益　検索

■浄土真宗のみ教え■

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声
私の煩悩と仏のさとりは　本来一つゆえ
「そのまま救う」が　弥陀のよび声
ありがとう　といただいて
この愚身をまかす　このままで
救い取られる　自然の浄土
仏恩報謝の　お念仏

み教えを依りどころに生きる者　となり
少しずつ　執われの心を　離れます
生かされていることに　感謝して
むさぼり　いかりに　流されず
穏やかな顔と　優しい言葉
喜びも　悲しみも　分かち合い
日々に　精一杯　つとめます

「『浄土真宗のみ教え』についての親教」をこのQRコードから見ることができます。

赤光白光

〝合格実績ナンバーワン〟塾講師と中学受験を目指す子と親を描いたテレビドラマ「二月の勝者〜絶対合格の教室」が面白い。受験界の裏側がリアルに描かれているのもあるが、この冬の〝勝者〟を目指す受験生の親として他人事ではないからだ。▼主人公・黒木蔵人は保護者に向けて「全員、第1志望に合格させます」と宣言する一方で、同僚には「塾講師は教育者ではなくサービス業」「親はスポンサー。子どもは金脈」と言い放つ。一見すると超商業主義の人物だが、実はまなざしが深く、成績不振に落ち込む生徒に「粘って頑張った経験のある人は受験でも強い」と言ったり、受験が元で仲違いする夫婦に投げかける「苦労されているのはお母さまも同じ」の言葉には、ついつい感情移入してしまう。▼わが家の受験生が「公立の中高一貫校に行きたい」と言い出したのは小学4年の秋だった。学びの選択肢が広いと聞いたという。志望校の対策を指導する塾に通いだし、平日の夜や休日も塾で友達と机を並べて過ごす日が増えた。妻の弁当をリュックに押し込み、勇んで出かけていく12歳。子どものいないわが家に寂しさを感じているのは、親だけのようだ。▼年が明ければ、まもなく〝勝者〟が決まる季節がやってくる。もちろん望む結果を手にさせてやりたいが、み教えをいただく親として伝えたいことは別にある。それは、その結果が決して人生を決めるゴールではないこと。そして、私たちは勝ち負けを超えた価値観に支えられているということだ。

ご縁を慶び、お念仏とともに
親鸞聖人御誕生850　立教開宗800

方丈堂出版 https://hojodo.jp/
お釈迦さまカレンダー 2022年 令和4年
お釈迦さまの生涯を描いた「お釈迦さまカレンダー」

探究社 https://www.tankyusha.co.jp
佐々木徹生 阿弥陀さまのはたらき
稲岡義證 親鸞聖人の教えほど厳しい教えはない
よろこび
ほのぼのカレンダー

近刊　堤楽祐著　声明旋律型の分類　定価1650円(税込)
声明の基本の旋律型を「勤式集」の回旋譜で表した三十五の基本型を元に、さらにその形や音階によって分類し、「勤式集」等の出現箇所を示す。
重版　親鸞聖人 教行信証御自釈　俵山雨季安居編集・深川倫雄監修　定価1572円(税込)
最新刊　松塚豊茂著　正信偈の研究　定価2200円(税込)
『正信偈』は、時と処を超えて永遠に新しい。『正信偈』を現代に生かすため、真宗学から宗教哲学へ、真宗学の諸概念を新しくとらえ直す。
鎌田宗雲著　「御絵伝」の絵解き　定価1650円(税込)
『御伝鈔』と『御絵伝』の基礎知識及び、『御絵伝』の第一幅から四幅までの内容を、各々絵に対応させ、わかりやすく解説する。
永田文昌堂 600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

法藏館 http://www.hozokan.co.jp
新刊　山田雅教著　中世真宗の儀礼と空間　六、八二〇円
改訂　平雅行著　歴史のなかに見る親鸞　法藏館文庫　一、二一〇円
近刊　塩谷菊美著　石山合戦を読み直す　軍記で読み解く日本史　二、二〇〇円
藤田正勝著　親鸞　その人間・信仰の魅力　三、一九〇円
(季刊誌)ひとりふたり・・　お正月を迎える　一三六円